

山鳥坂ダム工事事務所 ダム事業費等監理委員会

—山鳥坂ダム建設事業—

山鳥坂ダム建設事業について

平成27年11月

山鳥坂ダム工事事務所

山鳥坂ダム建設事業の主な経緯

| | | |
|--------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 平成 4 年 | 4 月 | 建設事業着手 |
| 平成 6 年 | 8 月 | 特定多目的ダム法の基本計画公示（事業費 約1,070億円） |
| 平成13年 | 5 月 | 分水量を縮小した「見直し案」を提示 |
| 平成14年 | 5 月 | 中予分水を除外した上で計画を再構築した「再構築計画案」を提示 |
| 平成15年 | 10 月 | 「肱川水系河川整備基本方針」策定 |
| 平成16年 | 5 月 | 「肱川水系河川整備計画」策定 |
| 平成17年 | 4 月 | 特定多目的ダム建設事業から直轄河川総合開発事業に移行（事業費 約850億円） |
| | 10 月 | 特定多目的ダム法に基づく基本計画を廃止 |
| 平成18年 | 7 月 | 地権者協議会とダム事業に関する基本協定書を締結（用地調査の開始） |
| 平成20年 | 5 月 | 環境影響評価手続き完了 ダム事業費等監理委員会設立（毎年実施） |
| | 7 月 | 山鳥坂ダム・鹿野川ダム環境検討委員会設立 |
| | 8 月 | 市道拡幅工事（工事用道路工事）着手 |
| 平成21年 | 9 月 | 用地補償基準（案）を地権者協議会が了承 |
| | 10 月 | 国土交通大臣が平成21年度におけるダム事業の進め方について発表「当初予定していた新たな段階に入ることとなる用地買収の着手を取りやめる事業」となる |
| | 12 月 | 国土交通大臣が新たな基準に沿った検証の対象とするダム事業を設定する考え方について発表 山鳥坂ダムは検証対象ダムとなる |
| 平成22年 | 9 月 | 国土交通大臣よりダム事業の検証に係る検討指示 |
| 平成24年 | 8 月 | 四国地方整備局事業評価監視委員会の開催（※審議の結果、「新たな段階に入らず、現在の段階を継続」は「妥当」） → 山鳥坂ダム建設事業再評価結果：国土交通省の対応方針「新たな段階に入らず、現在の段階を継続」 |
| | 12 月 | 四国地方整備局事業評価監視委員会の開催（※審議の結果、事業継続は「妥当」） |
| 平成25年 | 1 月 | 国土交通省の対応方針について「継続」決定 |
| | 3 月 | 損失補償基準に関する協定書調印式 |
| 平成27年 | 7 月 | 四国地方整備局事業評価監視委員会の開催（※審議の結果、事業継続は「妥当」） |

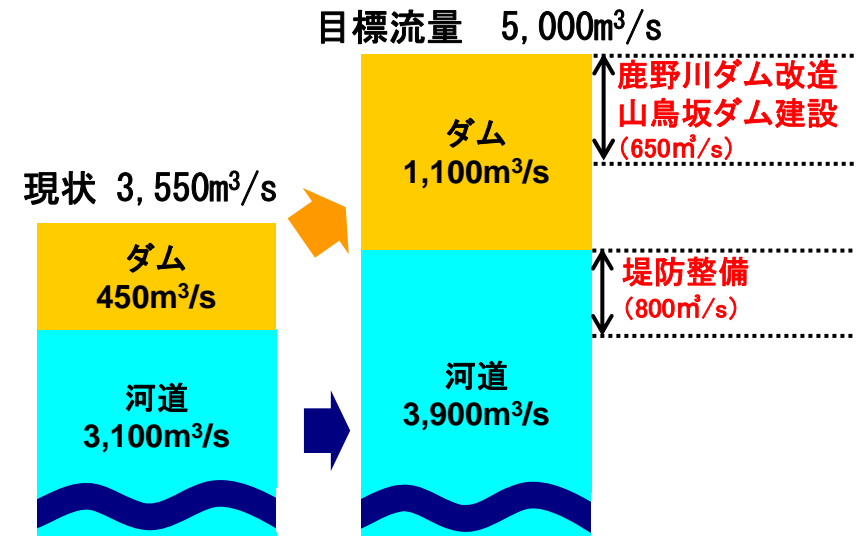
肱川水系河川整備計画(H16.5策定)【ダム関係】

■治水(整備計画)

大洲地点における戦後最大洪水**5,000m³/s**に対して、既設野村ダム・鹿野川ダム(改造含む)・山鳥坂ダムの建設によるダム群により、**1,100m³/s**の調節を行い、肱川下流全川に渡り洪水位の低下を図る。

■環境

鹿野川ダム(改造含む)、山鳥坂ダムに河川環境容量を設け、アユをはじめとする動植物の生息・生育や良好な水質の確保等、流水の正常な機能を維持するため必要な流量として、大洲地点においては、冬期以外は概ね**6.5m³/s**、冬期は概ね**5.5m³/s**を確保する。また、鹿野川ダム直下地点においては、冬期以外は概ね**6.0m³/s**、冬期は概ね**3.2m³/s**を確保する。



河川整備計画における対策イメージ



大洲地点の様子

山鳥坂ダム建設事業概要

えひめけん おおずし ひじかわちょう やまとさか ひじかわ かわべ

○場 所：愛媛県大洲市肱川町山鳥坂(肱川水系河辺川)

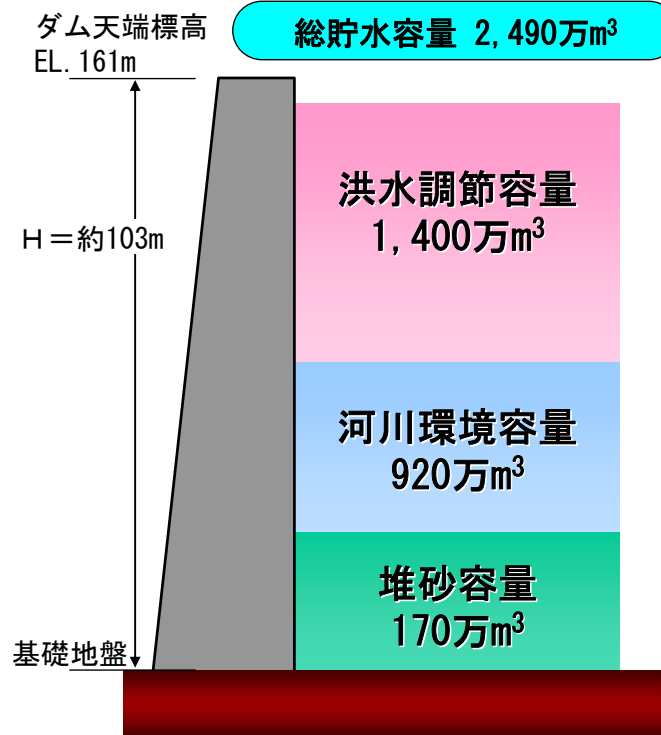
○目 的：洪水調節(肱川の洪水防御)

流水の正常な機能の維持

山鳥坂ダム建設予定地

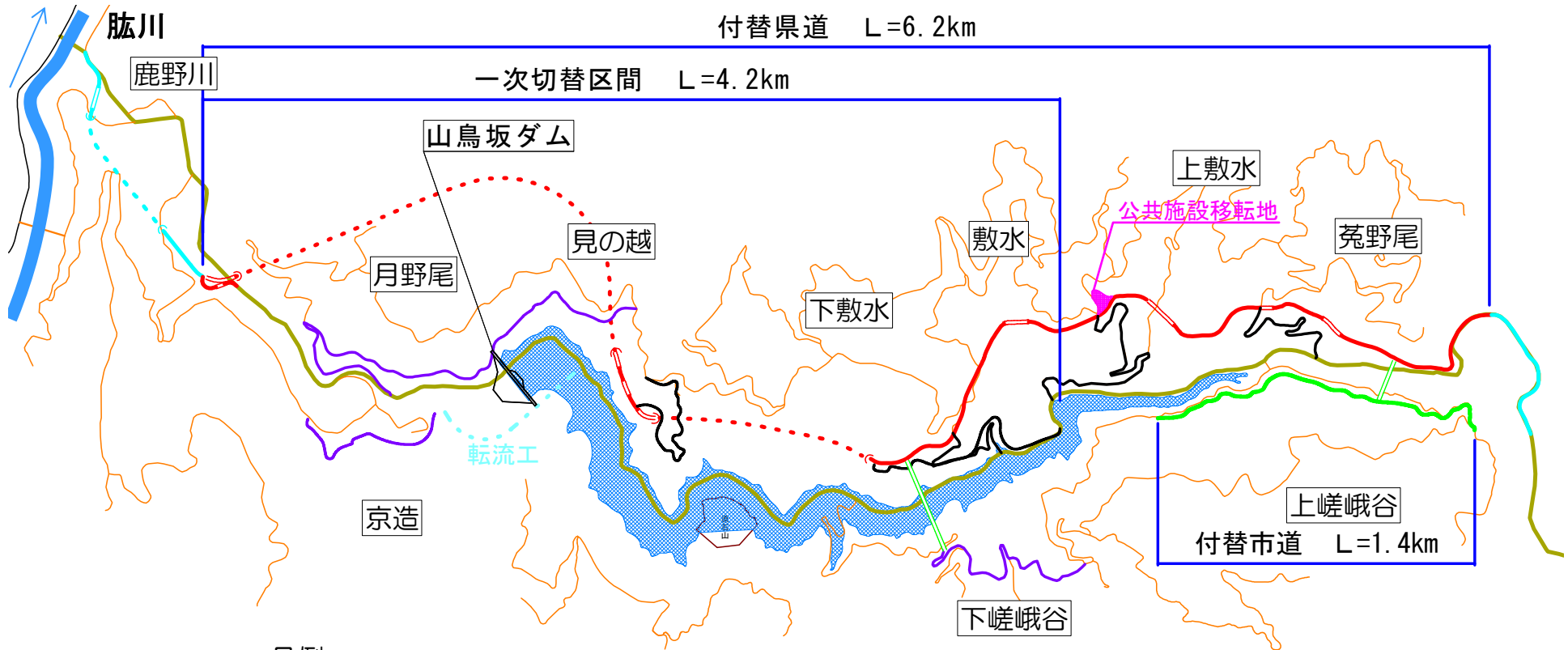


山鳥坂ダム容量配分図



山鳥坂ダム建設事業概要

■全体計画図



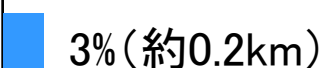




凡例

| | | | |
|--|---------------|--|----------------|
| | 付替県道 (一般部) | | 付替市道 (一般部) |
| | 付替県道 (橋梁部) | | 付替市道 (橋梁部) |
| | 付替県道 (トンネル部) | | 工事用道路 (付替道路関連) |
| | 県道改良 (県施工区間) | | 工事用道路 (ダム本体関係) |
| | 現県道 (小田河辺大洲線) | | 市道・林道 |

事業の進捗状況

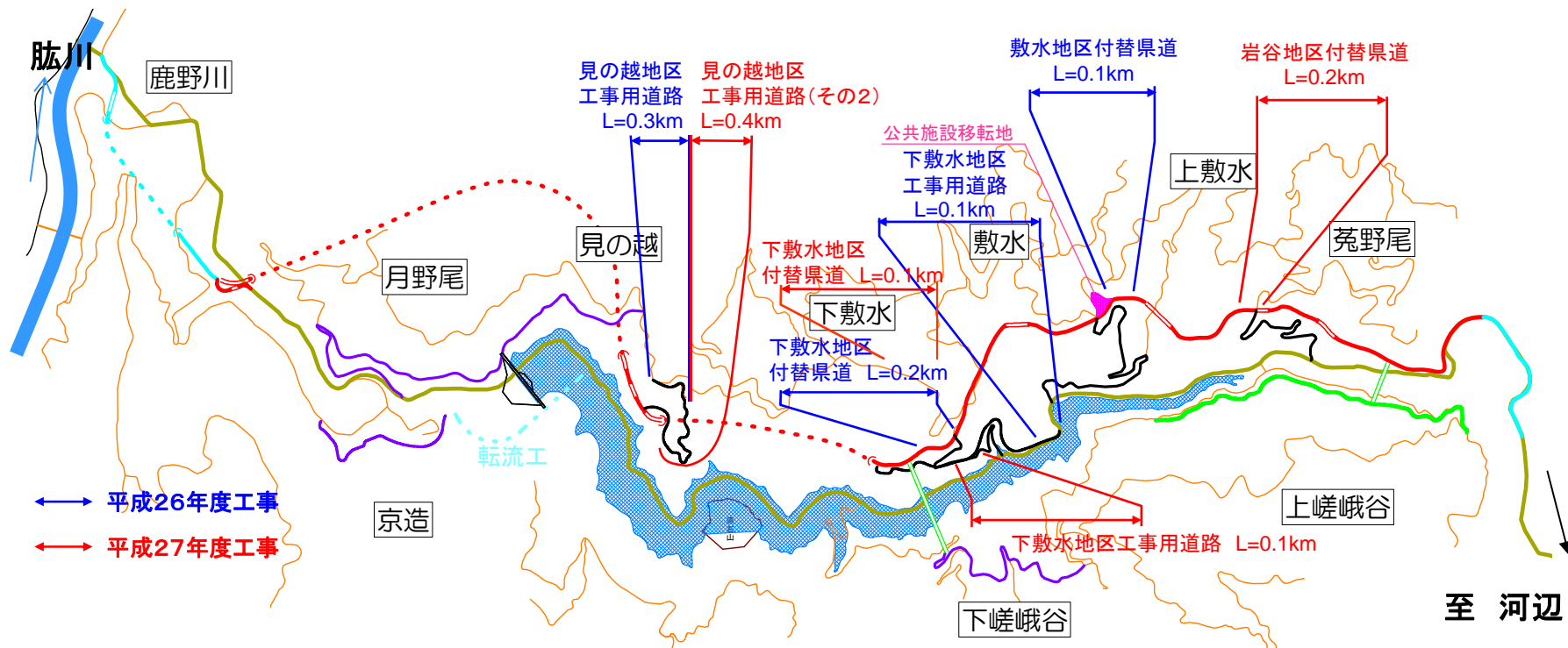
(平成27年10月末時点)

| | |
|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 補償基準等 | H20.5 環境影響評価の手續終了 H21.9 用地補償基準を地権者協議会が了承 H25.3 損失補償基準に関する協定書調印式 |
| 用地取得 (約139ha) |  50%(約70ha) |
| 家屋移転 (33戸) |  82%(27戸) |
| 付替県道 (約6.2km) |  3%(約0.2km) |
| 工事用道路 [付替道路関連] (約3.2km) |  25%(約0.8km) |
| 工事用道路 [本体関連] (約3.5km) | 0% |
| ダム本体及び関連工事 |  |

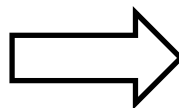
* 平成26年度末現在の投資額
約232.5億円(総事業費850億円 進捗率:約27%)

平成26・27年度の実施内容(付替県道・工事用道路工事等)

■付替県道および工事用道路工事等を実施



下敷水地区工事用道路 工事着手前



下敷水地区工事用道路 工事着手後

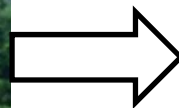


平成26・27年度の実施内容(付替県道・工事用道路工事等)

■付替県道および工事用道路工事等を実施



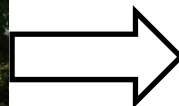
下敷水地区付替県道 工事着手前



下敷水地区付替県道 工事着手後



見の越地区工事用道路 工事着手前

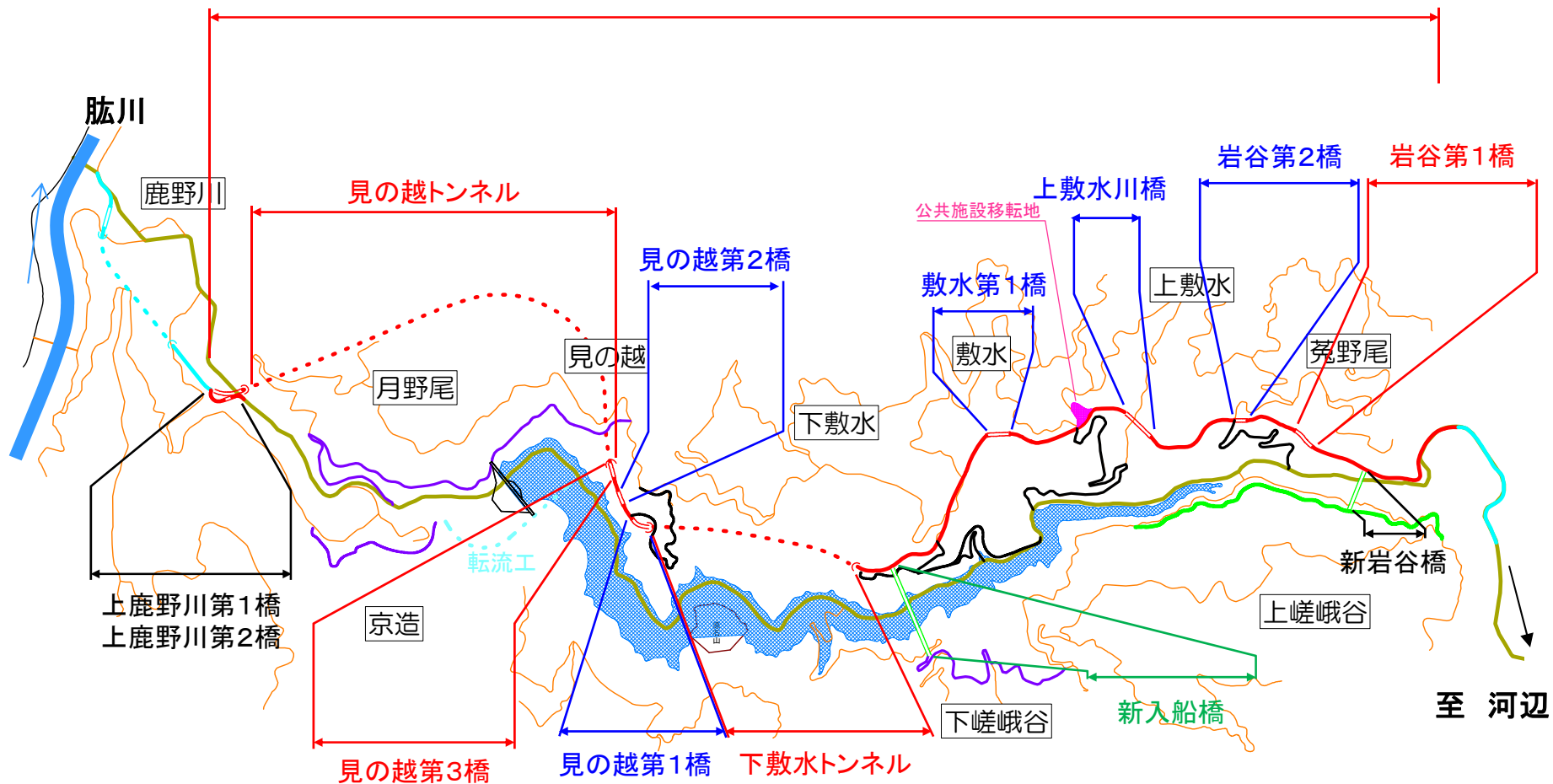


見の越地区工事用道路 工事着手後

平成26・27年度の実施内容(設計等業務の推進)

■ 橋梁設計、道路構造物設計等を実施

道路構造物設計等



| | | | |
|------------|--------------|------------|--------------|
| ←→ (Green) | H25年度以前 詳細設計 | ←→ (Red) | H27年度 詳細設計 |
| ←→ (Blue) | H26年度 詳細設計 | ←→ (Black) | H28年度以降 詳細設計 |

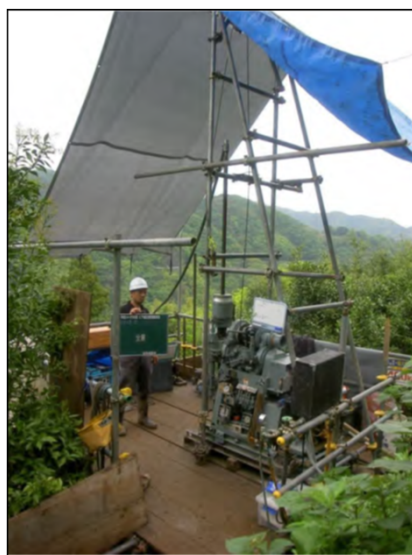
平成26・27年度の実施内容(地質調査)



地表地質踏査



ダムサイト横坑掘削



ボーリング調査



横坑内岩盤調査

平成26・27年度の実施内容（環境調査・基礎調査等）

- 事業実施にむけて必要な情報を収集・整理するため、環境調査・基礎調査等を継続的に実施

| | |
|-------------|---------------------------------------|
| 環境調査（動物・植物） | 各種自然環境について現地調査を継続的に実施し、モニタリング・保全対策を実施 |
| 地すべり観測 | 孔内傾斜計を設置し継続的に観測 |
| 水理水文観測 | 水位・流量・雨量等を継続的に観測 |
| 地下水調査 | 地下水変動を継続的に観測 |
| 水質調査 | 水質を継続的に観測 |
| 地質調査 | ダムサイト周辺の地質調査を実施 |

環境調査（猛禽類）

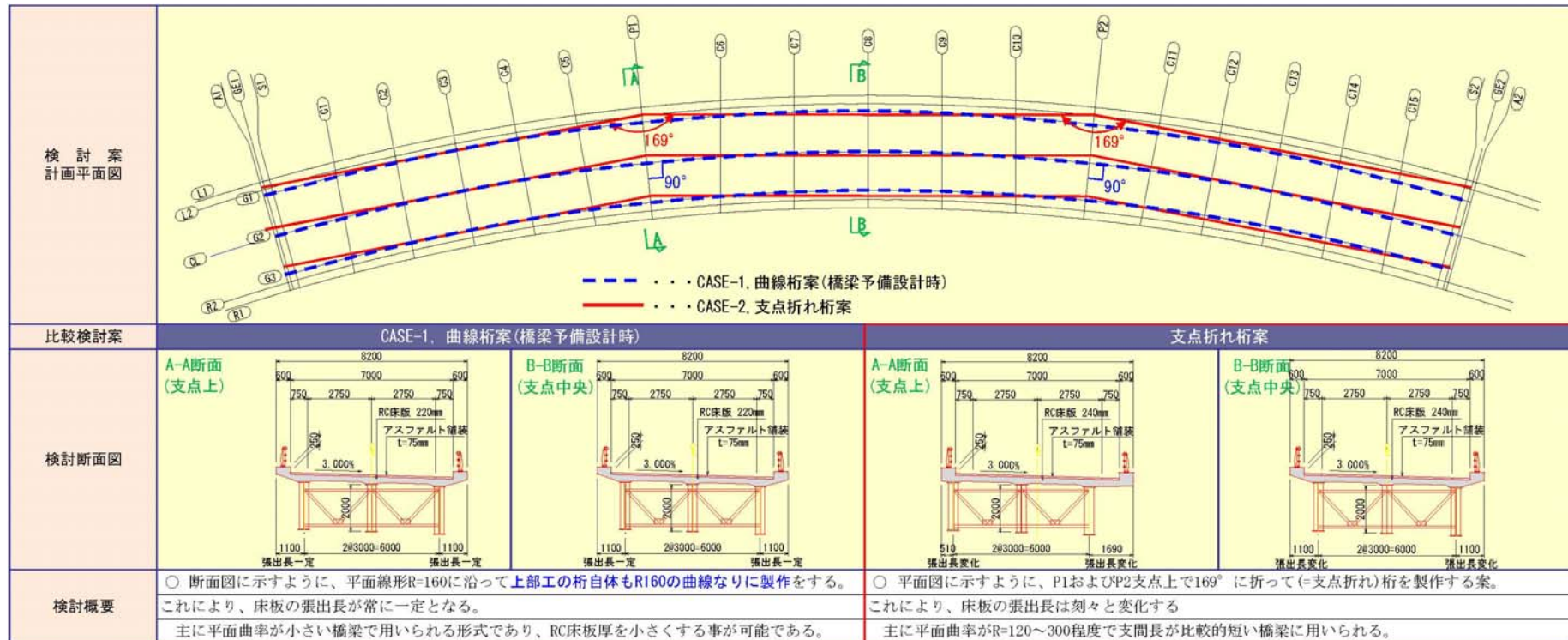


地すべり観測（孔内傾斜計観測状況）



コスト縮減（見の越第1橋 L=88.9m）

■ 支点折れ桁の採用による上部工のコスト縮減



工事費 70,593千円

工事費 58,709千円

支点折れ桁を採用することで、曲線による施工割増がなくなり上部工全体の工事費の低減により11,884千円のコストを縮減。

コスト縮減（見の越第2橋 L=62.0m）

■仮橋計画の見直しによる費用のコスト縮減

